

研究部会「都市のOR」 中間報告

01102840 筑波大学社会工学系 *腰塚武志 KOSHIZUKA Takeshi
01009486 筑波大学社会工学系 大澤義明 OHSAWA Yoshiaki

1. はじめに

都市のORという研究内容は学際的であり、そのため、OR手法に精通する理論研究者と都市計画を専門とする実践研究者との密接な交流が重要である。しかし、残念なことに、学会発表等の情報交換だけではこのような交流は不可能である。講師による研究発表さらにその後の会合やメンバーの議論を通して都市に関する諸問題、例えば、環境問題、規制緩和、交通計画、施設計画、土地利用とOR手法(数理計画、幾何確率等)との関係を深める。また、異分野間の研究者交流の促進を目指す。

本研究会は、原則として筑波大学を会場とし、年に6回程度研究会を行うとともに、その後会合を行い情報交換を進める。研究会の講師としては、本研究会発足メンバーに限らず、筑波研究学園都市に位置する建設省建築研究所、建設省土木研究所、環境庁環境研究所の研究者、民間研究所の研究者にもお願いする。

以降では、平成9年6月から平成10年1月までに開いた研究部会活動の報告をまとめる。

2. 活動内容

第1回研究会

平成9年6月27日(金)

参加人数：22人

会場：筑波大学工学棟3F1136

「立地論に関する最近の話題」ドミニク・ペーターズ(ルーバン・カトリック大学)

「移動距離からみた都市空間の分析」腰塚武志(筑波大学社会工学系)

第2回研究会

日時：平成9年9月26日(金)

参加人数：20人

会場：筑波大学工学棟3F1136

「交通路面積を考慮した配分問題」田口東(中央大学)

「平面上で発生する移動を考慮した交通網の評価」三浦英俊(日本学術振興会特別研究員)

第3回研究会

日時：平成9年11月21日(金)

参加人数：18人

会場：筑波大学工学棟3F1136

「道路延長の推定と理工学基礎実験」栗田治(慶応義塾大学)

「携帯電話の「かけ逃げ」を察知する試み」西野嘉彦(浜銀総合研究所)

第4回研究会

日時：平成10年1月30日(金)

参加人数：18人

会場：筑波大学工学棟3F224

「ミニマム・スパニングツリーの諸特性に関する理論的考察」古山正雄(京都繊維工芸大学)

「エレベータ移動率の確率モデル」島川陽一(中央大学大学院理工学研究科)

3. 研究成果

少なくとも次の3点が成果として上げられる。

1. OR研究者の他に、都市計画、建築計画など多くの分野の研究者の参加があり、多くの視点から議論を深めることができた。
2. 携帯電話の契約問題など、実務上での最近のホットな話題提供があった。
3. 大学院生の多数の参加があり、教育という面からも貢献ができた。

4. おわりに

本研究会は、原則として2月に1度の割合で金曜日午後筑波大学にて開催する予定です。発表希望者及び参加希望者さらには会場案内については、下記宛ご連絡下さい。

筑波大学社会工学系 大澤義明

つくば市天王台1-1-1

電話：0298-53-5224

ファックス：0298-55-3849

osawa@shako.sk.tsukuba.ac.jp.

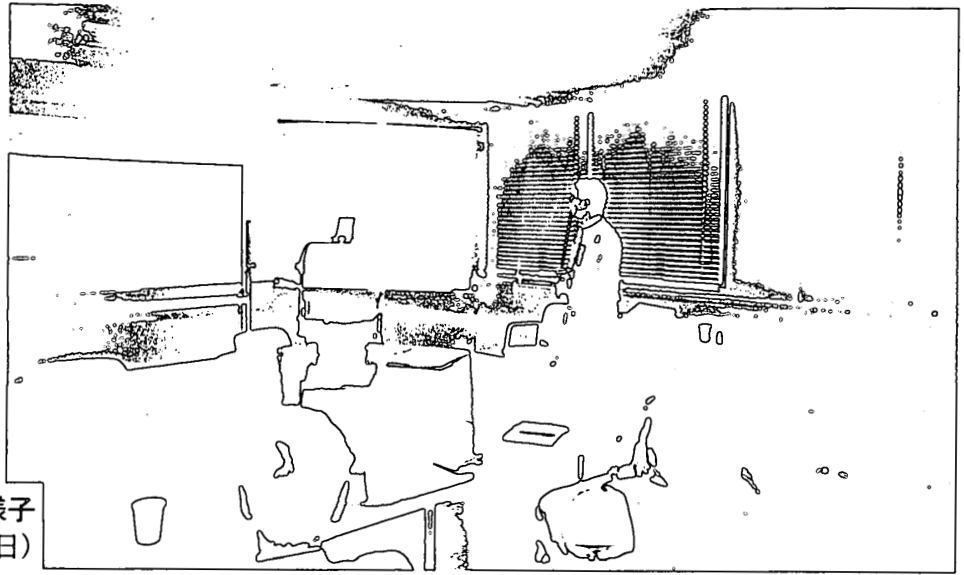


写真1 発表会の様子
(平成10年1月30日)

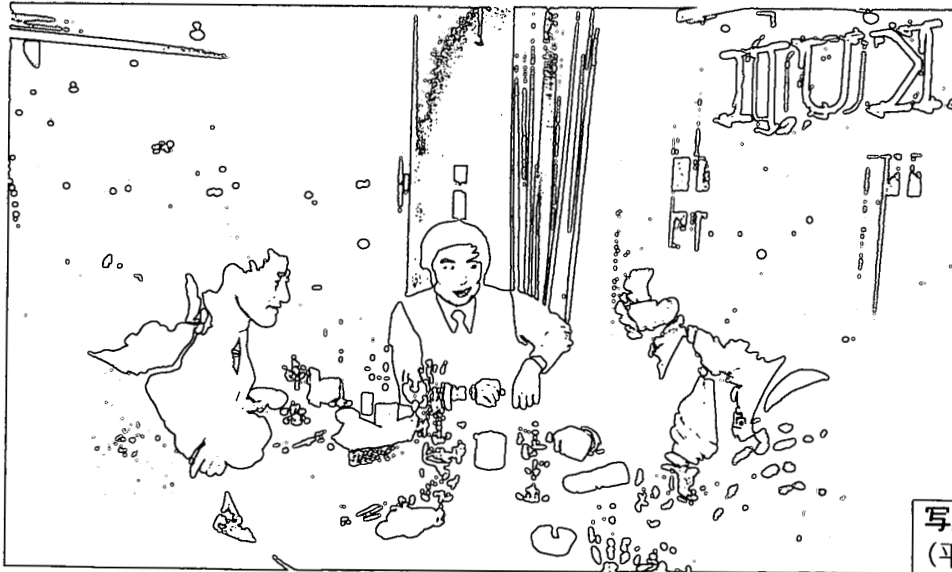


写真2 懇親会—コマ
(平成10年1月30日)

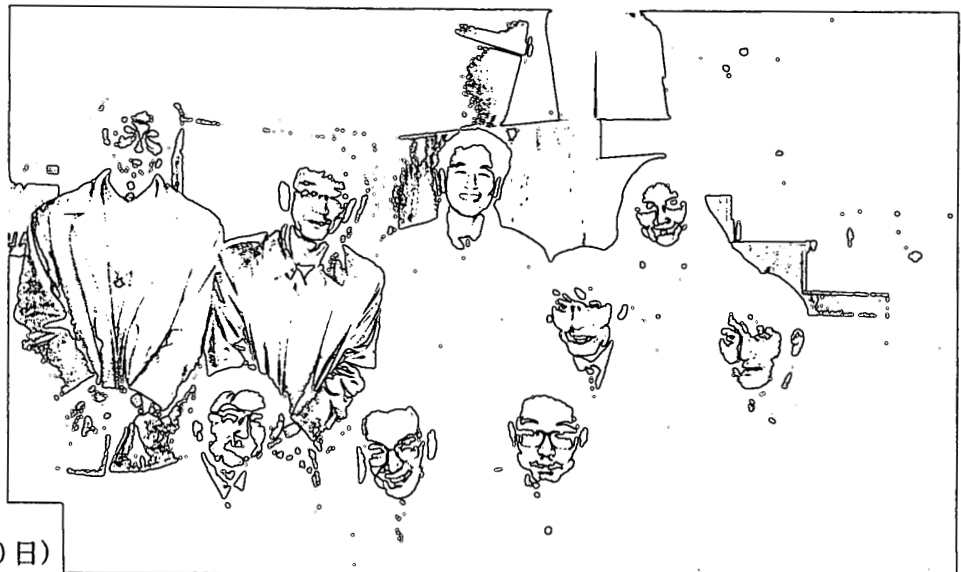


写真3 懇親会後に
(平成10年1月30日)